

平成 28 年度 燕市・西蒲原郡道徳部 活動報告

部長 古谷 一成

1 研究主題

道徳的実践力を育てる指導法の工夫

2 研究の概要

外部講師を招いて指導を受けるとともに、研究主題を受けた授業公開・検討を行った。

3 研究の実際

(1) 第1回部会

① 期日：6月1日（水） 燕市立大関小学校

② 内容：講義と演習

講師 県立教育センター指導主事 長谷川 晋 様

○ 講義

道徳が教科化されることで、どのような取組が大切になるか、どのような指導方法の工夫が必要かを豊富な資料を通して具体的に分かりやすく説明していただいた。十数年後の社会を生きる子どもたちが、生きる力をつけるためには、答えのない課題に最善策を導くことができる能力を育むことが重要であるというご指導をいただいた。

○ 演習・指導

「こころとこころのあく手」という資料を使って、授業における中心発問を考えた。その後、教師相互で話し合う活動を行い、子どもが考え議論する展開案を作ることができた。中心発問をテーマ発問にする方法や学習テーマと中心発問をつなぐ方法で、子どもから多様な考えを引き出す授業の工夫が必要であることを学んだ。

(2) 第2回部会

① 期日：11月30日（水）燕市立分水北小学校

② 内容：授業研究・協議会

題材名 友達と仲よくし助け合う

(資料名：たけしくんのぼうし)

授業者 燕市立分水北小学校 若林 菜月 教諭

○ 授業の内容と協議

「たけしくんのぼうし」という資料を使って、友達を思いやることやたがいに助け合っていくとする気持ちを育てることをねらいとした授業が行われた。資料の内容が、2年生の児童に理解しやすく、子どもたちが身近なこととして捉え自分の考えを出し、友達を思いやることに気付いていった。一方で、とおるくんの行動について考えさせる場面を大切に取り扱うことで、もっと深く掘り下げることができたのではないかとということが話題となった。

4 成果と課題

道徳科では、道徳的実践意欲と態度を育てることが重要であり、読み物教材を使う場合には、単なる登場人物の心情理解のみの指導に終始するのではなく、登場人物への自我関与が中心の学習を展開しなくてはならないことが確認できた。そのため、教師が主題設定を明確にし、指導観に基づく発問を行わなければならない。ねらいにせまるために、登場人物のだれに焦点を置き、何を問うかを十分吟味する必要がある。

